

# 隠れた脳の病気を発見！ 脳ドック

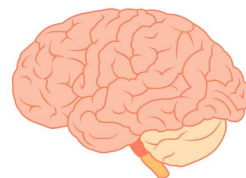
健康エクспレス No. 52

医療機器の発達により隠れた病気が発見しやすくなってきました。発症するまで見つけることが難しかった脳に関する病気はその一つです。今回は生命に大きく関わる脳の病気を発見できる脳ドックについてご紹介します。

## 日本で生まれた脳ドック

### (1) 1988年、脳ドック誕生！

「脳ドック」は脳の病気を発見するために、検査・診断を行うことです。実は、この脳ドックは日本で生まれたもので、1988年に、北海道・札幌市の脳神経外科病院で始められました。非常に致死率の高くも膜下出血の原因となる脳動脈瘤を破裂前に発見して、治療することにより『くも膜下出血の撲滅』を目指したものでした。



### (2) 脳ドックで発見される病気は？

脳の病気の早期発見・早期治療のために脳ドックは大いに期待されています。くも膜下出血の予防を目的に始まった脳ドックですが、現在では他の脳の病気も発見することができます。例えば、脳の病気に多くみられる強い頭痛、吐き気、しびれなどの症状が現れる前であっても、①脳の血管が詰まっている、②脳の血管から出血している、③脳に腫瘍がある、など隠れた脳の病気を発見することができます。また、首の頸動脈の血管内に生じた血栓は剥がれ落ちると脳の血管まで流れて行き、脳梗塞を起こすことがあります。こうした頸動脈内の血栓の状態も脳ドックで行われる検査によって調べることができます。

### (3) 脳ドック受診の検討を

高血圧の方、肥満の方、喫煙する方、家族に脳卒中の病歴がある方は脳に障害を与える病気にかかる危険性が高い方です。特に、40歳以上でこれらに該当する方は脳ドックの受診をお勧めします。その他、右表のように脳の病気が疑われる症状を持つ方も、脳ドックを受診したいものです。

頭痛や頭の重い状態が続く
一過性ではあるが、頭に激痛が起きたことがある
目の前が真っ白になったり、真っ暗になったことがある
めまい、耳鳴り、立ちくらみが多く起こる
気が遠くなったり、意識がなくなったことがある
手足のしびれがある、手が震える
顔面にしびれがある、くちびるがしびれる

## 脳ドックを受けるために

### (1) 脳ドックでの検査機器

脳ドックの検査に大きな役割を果たす機器がCT（※1）とMRI（※2）です。CTやMRIにより脳の断面を撮影し、悪化している部分を特定することができます。また、MRIを用いることで脳の血管だけを画像化する検査（MRA）が可能です。



※1 人体の周囲からX線を照射し、投影データから人体の断面画像を得る装置。

※2 人体に強力な磁気と高周波をあてて、体内の水素原子核の状態をコンピュータにより分析して、人体の断面画像を得る装置。X線を使用しないので被爆することがない。

### (2) 脳ドックの検査項目

脳ドックは画像診断を基本としますが、その他に、血液や心臓の検査が含まれます。医療機関により異なりますが、主に右表のような検査が行われています。

問診・診察
頭部CT、MRI・MRA
頸動脈エコー
尿・血液検査
心電図
動脈硬化検査

### (3) 脳ドックの費用と受診できる医療機関

脳ドックの場合、多くは医師の診察によらず、受診者が自ら希望して受ける検診です。そのために費用は健康保険の対象となりません。医療機関と検査項目によって、脳ドックの費用は変わります。概ね3～6万円が費用の目安となります。

脳ドックはCTやMRIなどの装置が必要なため、実施している医療機関は限られています。脳ドックを実施している主な医療機関は下記「日本脳ドック学会」のホームページで検索することができます。全国で合計419（2008年2月時点）の医療機関が登録されています。

<http://www.snh.or.jp/jsbd/search.html>

皆様の安心と安全のブレイントラスト（専門顧問グループ）》

株式会社ヤシロエージェンシーリミテッド 担当：八城一浩

〒107-0052 東京都港区赤坂3-1-2 TEL:03-3582-4511